平成２６年度

第２回岡山市保健福祉政策審議会における主要な意見

１　日　時　　平成２６年８月２１日（木）１３：３０～１５：３０

２　場　所　　岡山市保健福祉会館９階　機能回復訓練室

３　出席者　　委員８名

４　傍聴者　　報道２者、傍聴者２名

５　議　題

・　関係者ヒアリング

・　第６期介護保険事業計画の国の基本的な指針（案）について

・　計画の基本構想について

・　高齢者実態調査の結果について

６　主要な意見

＜関係者からの意見＞

・高齢者の方で見守られたり、干渉されるのを嫌う人もいる。地域には民生委員、婦人部、愛育委員、老人クラブなどいろんな支援活動があるが活動が重なったりもしており、干渉を嫌う人は余計に嫌がることもあるのでは。これらの団体が一堂に会して話をする「地域ケア会議」はそれぞれの団体の役割分担が図られるなどとても良い仕組みだと思う。

・老々介護や独居高齢者、また認知症の増加などに対応するためには訪問系サービスの充実が必要。在宅を支えるサービスとして注目されている「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」は、旭川より東の地区にはひとつもない。バランスのとれたサービス提供体制の展開が必要になってくると思われるため、行政としても何らかの支援措置を検討してもらいたい。

・介護職の人材確保の対策として、研修の実施、キャリアパスの創設などを行政が支援する仕組みが必要ではないか。

・医療と介護の連携はますます重要になる。岡山市でも多職種の方が連携する取り組みが始まっていると感じているが、これらの「顔の見える関係」が継続していく体制をつくってほしい。

・様々な介護予防事業が実施されているがその効果、エビデンスが今一つはっきりしない。高齢者が一気に増加する２０２５年に向けて介護予防はますます重要になるはずであるが、国の政策誘導を見ると利用者への効果よりも財政的な問題で制度設計されているのではないかと危惧している。是非とも岡山市で効果的な予防対策を実施してもらいたい。

・地域ケア会議は、地域の意見を反映させる非常に重要なもの。この施策体系をしっかり構築してもらいたい。

・地域包括ケアシステムを構築するためには、これまであまり組織化されていない見守りや配食などのインフォーマルなサービスを充実させていく必要がある。また、市民やボランティアの方を活用した支え、助け合いの仕組みづくりを推進してもらいたい。新総合事業も来年４月から実施するのではなくしっかり準備してほしい。

・御津や建部地区など地理的にサービスが受けづらい地域にも目を向けてほしい。

・急性期の病院は、在宅へすぐ帰れないような状態でも２、３週間で退院を勧める。入退院のときに色々なフォローしてくれることが必要だと痛切に感じる。

・高齢化が進んでいけば、介護、医療の費用が足りなくなる。私たち高齢者もサービス受給だけでなく、何か力を地域に還元したい。例えば、ナルク（ＮＡＬＣ）という法人が推奨している時間預託制度（※１）などが良いものだと思う。

※１【時間預託制度】

サービスの必要な会員にサービス出来る特技を提供し、このサービスを提供した活動時間を点数としてナルクに点数預託（貯蓄）しておき、いずれ自分にサービスが必要になったときや、配偶者・両親・子供（但し、介助・介護なしには通常の生活が出来ない子に限る）のために預託した点数（貯蓄）を引き出し、サービスを受けるなどの制度

・地域で支え合うような会をつくるコツは楽しみながらするということ。町内の役を「仕方がないからやる」という雰囲気では会は続かない。

・医師会主催の介護職の方に対する研修会等を開催するなど、岡山市医師会としても医療・介護の連携を進めていきたいと思っている。

＜国の基本的な指針、計画の基本構想について＞

意見なし

＜高齢者の実態調査について＞

・サービスの利用方法などに地域差があるのは、地域の事業所数、施設数の多少と関連があるのではないか。地域ごとにどんな施設がどのぐらいあるのか教えてほしい。

・地域差は高齢化率や平均年齢にもよると思うので、地域ごとの高齢化状況が知りたい。

・今はサービス利用の必要はないが、おまもりとして認定しておこう。認定があればすぐサービスが使えるという市民心理が働くのはごく自然なこと。地域の中に介護事業所があれば使ってみたいとなる。認定率が高いことが介護予備軍が多いということにはならないと思う。